学校創立１４０周年

百年松

阿木名小中学校便り　令和元年１０月１８日発行

◇ 校訓「かしこく　やさしく　たくましく」

あ 明るく元気なあいさつができる子ども
ぎ ぎりぎりまであきらめず努力する子ども
な 仲よく笑顔いっぱいの子ども

～花いっぱい，元気いっぱい，笑顔あふれる阿木名っ子～

阿木名小中学校

自分の目で見る力を養う

校長　川原　啓司

先日の町民体育大会では本校の子どもたちや保護者の方々が多数参加していただき，山郷（やまぐん）チームは総合成績2位という素晴らしい結果を収めました。あわせてチーム一丸となった応援がすばらしいということで特別賞もいただきました。2週間前から一般の方の夜間練習が始まり，1週間前には子どもたちも練習に加わりました。種目ごとに個人練習をしたりバトンパスのタイミングを合わせたり，むかで競争での足の運びを確認し合ったりと，グラウンドのあちこちで熱心に取り組む姿が見られました。おかげで小中学生の参加種目である「むかで競争」，「小中高生地区対抗リレー（女子の部）」では1位を獲得し，チームの躍進に大きく貢献してくれました。本当にお疲れ様でした。

さて，毎年この時期にノーベル賞受賞者の発表が行われます。今年はノートパソコンやスマホにかかせないリチウムイオン電池の生みの親である吉野彰さんが化学賞に選ばれました。ここ数年はほぼ毎年のように日本人がノーベル賞を受賞しています。昨年は京都大学の本庶佑教授が「がん免疫療法」を確立した功績が評価され，ノーベル生理学医学賞を受賞しました。その記者会見の中で科学者を目指す小中学生に送った言葉が印象的でした。その言葉とは「教科書に書いてあることを信じるな」というものです。この言葉の真意は「常に疑いをもって本当はどうなんだろうという心を大切にする」つまり「自分の目で物を見ることの大切さ」を伝えたものでした。学びは「本当かな」「不思議だな」と思う心から始まります。そして自分なりの見通しをもって粘り強く取り組んでいくことが大切です。変化の激しい社会を生きる子どもたちには，予測できない課題に主体的に向き合う態度が求められます。自分の目でしっかりと見て，本当はどうなっているのか判断できる子どもたちを育てるために，今後も学校では「主体的，対話的で深い学び」の実現をめざした授業に取り組んでいきますので，ご理解ご協力をお願いいたします。

おめでとうございます

大会・コンクール等入賞者

◆KKB硬筆ｺﾝｸｰﾙ　金賞　小4　玉利　聡太郎

◆読書感想文ｺﾝｸｰﾙ

地区特選　小1　里山　翼

町特選　小3　山口　珠侑　小4加納　彩愛

◆児童生徒作文ｺﾝｸｰﾙ　特選　小5　玉利　康惺

◆理科に関する研究記録展

町特選　小4　林　愛珠　小4福満　陽基

小6　川崎　良徳　中2屋崎　耕志